

「防災・福祉・健康産業フェア in はままつ」 出展報告

齋藤 眞¹⁾・藤原 治²⁾・田中裕一郎³⁾・佐藤善輝³⁾・尾崎正紀³⁾

「災害から家族を守る，企業を守る，地域を守る」をコンセプトに，2016年12月9日から11日までの3日間，浜松市東区役所隣接の浜松市総合産業展示館で行われた「防災・福祉・健康産業フェア 2016in はままつ」（主催：防災・福祉・健康産業フェア in はままつ実行委員会）に出展した。本フェアでは，静岡県を初めとする県内の多数自治体の後援を得て，108のブース展示と講演会等が行われた。防災のブースには，公的機関から産総研地質調査総合センター（GSJ）のほか静岡県危機管理部，浜松市危機管理課，国土交通省中部地方整備局，陸上自衛隊静岡地方協力本部等が出展し，民間企業から簡易津波シェルター，震災時の都市ガス支援システム，各種防災グッズ等が出展された。また，起震車による大地震の揺れを体験するコーナーも設置された。来場者は公式発表で12月9日（金）1,418人，12月10日（土）1,344人，12月11日（日）2,274人，計5,036人であった。

GSJのブースは，入り口受付脇のNo.1ブースで，パネル展示と床貼り地質図を使ったGSJの研究紹介を行った。パネルは海溝型地震の研究，浜松市とその周辺での津波堆積物調査（津波堆積物の剥ぎ取り試料も含む），海陸シ-

ムレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」を展示した。床貼り地質図は，海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」（300%拡大）と，「地質情報展 2015 ながの」で作成した中部地方の20万分の1日本シームレス地質図「中部地方」（約5m四方）を展示した。

会場入り口の床貼り地質図には来場者の関心が高く，特に自宅が地震動や津波に対して大丈夫かが興味の中心であった。ただ，凡例がわかりにくいとの指摘があり，工夫が必要に思われた。床貼り地質図に関心を持った方は展示物にも興味を持って見て頂いた。関心を持った人の滞留時間は長く，30分以上滞留する方も見られた。また，出展していた民間会社の方からは自社の立地に関する興味が高く，自社の店舗は津波の時に大丈夫かなど真剣な質問もあり，今後の地質情報の展開に，企業向けのBCP（Business Continuity Plan）への応用が重要なテーマになることが認識できた。

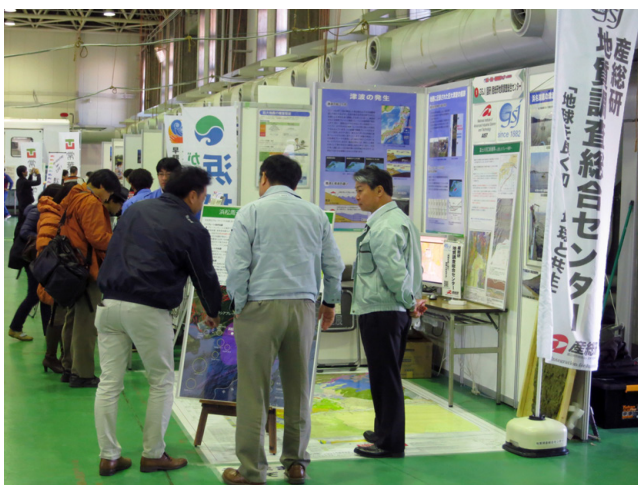


写真1 ブースの様子 (撮影：齋藤 眞)。



写真2 床貼り地質図を見る人々 (撮影：佐藤善輝)。

SAITO Makoto, FUJIWARA Osamu, TANAKA Yuichiro, SATO Yoshiki and OZAKI Masanori (2017) Exhibition report of Disaster prevention, Welfare, and Health industry Fair 2016 in Hamamatsu.

(受付：2017年1月10日)

1) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部
2) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター (元地質調査総合センター研究戦略部)
3) 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード：防災，福祉，健康，津波，駿河湾，シームレス地質図